

米国国立公文書館機密解除資料

CIA 日本問題ファイル 解説

加藤哲郎

はじめに

本資料集『CIA 日本問題ファイル』全2巻は、先に刊行した『CIA 日本人ファイル』全12巻の直接の延長上にあり、補巻である。

より具体的には、米国クリントン政権末期、2000年の日本帝国政府情報公開法にもとづき機密解除された戦時・占領期の日本関係資料約10万頁（米国国立公文書館 NARA、The U.S. National Archives and Records Administration 所蔵）の中で、特に注目度の高い米国中央情報局（CIA）が収集した問題別ファイル（subject files）の中から、日本に直接関連したファイル群を収録するものである。日本人31人の個人ファイル（name files）を収録した『CIA 日本人ファイル』を補充する、第一次史料である。

1 機密解除された日本帝国政府情報公開法資料

『CIA 日本人ファイル』第1巻の「解説」に述べたように、2007年1月12日、米国国立公文書館（NARA）は、「日本の戦争犯罪記録研究のために10万頁を機密解除」として、以下の記者発表を行った。

ナチス戦争犯罪記録及び日本帝国政府記録省庁間作業部会（IWG）は、日本の戦争犯罪に関連するファイルを精査した結果として、10万頁の最近機密解除された記録を利用可能にすると発表した。それに加えて、IWG は、Researching Japanese War Crimes Records: Introductory Essays という参考文献、electronic records finding aid という研究者が太平洋戦争に関して国立公文書館の数千の新たな拡張されたファイルを探し利用するためのガイドを発表した⁽¹⁾。

これは、帝国日本についての機密解除記録の記者発表であるが、もともと米国民主党クリントン政権末期に、ナチスの戦争犯罪記録公開に準じて行われたものである。この経緯を、日本のドイツ現代史研究者清水正義は、自身のウェブサイトで詳しく説明していた。

アメリカ議会は1998年10月8日にナチ戦争犯罪情報公開法（Nazi War Crimes Disclosure Act）（以下、ナチ情報公開法と略す）を、次いで2000年12月27日に日本帝国政府情報公開法（Japanese Imperial Government Disclosure Act）を制定した。前者はナチ戦争犯罪に関して合衆国政府機関が

保管する機密扱い記録の機密解除と公開を、同様に後者は戦前日本政府・軍の戦争犯罪に関する機密扱い記録の機密解除と公開を主旨としたものである。両者はほぼ同一内容であり、後者は前者の執行過程で前者を補完するものとして制定された。……ナチ情報公開法は、アメリカ政府機関が所有するナチ関係記録で現在なお機密扱いされているものについて、なるべく広範に機密解除をするべく、しかるべき機関が3年間の期間限定で記録調査、目録作成、機密解除指定等を行うことを定めている。すなわち、同法によれば、

一、法発効後90日以内に関連機関を横断する機関「ナチ戦争犯罪人記録省庁間作業部会（Nazi War Criminal Records Interagency Working Group）」（以下「省庁間部会 [IWG]」）と略）を設立し、
二、省庁間部会は1年以内に次の任務を行う。

- (1) 合衆国のすべての機密扱いされたナチ戦争犯罪人記録を探索し、確認し、目録を作成し、機密解除を勧告し、そして国立公文書館記録管理局で公衆が利用できるようにし、
- (2) 各省庁と協力し、これらの記録の公開を促進するのに必要な行動をとり、そして
- (3) これら記録のすべて、これら記録の処理、及び本セクションに基づく省庁間部会と各省庁の活動を記した報告書を、上院司法委員会及び下院政府改革監視委員会を含む議会に提出する。

三、ナチ戦争犯罪人記録は原則として公開され、公開しない場合の例外事由について詳細に規定される。例外事由を要約的に列挙すれば、

- (A) 個人のプライバシーを不当に侵すもの
- (B) 国家安全保障上の利害を損なうような情報源、情報手段を暴露するもの
- (C) 大量破壊兵器の情報を暴露するもの
- (D) 暗号システムを損なう情報を暴露するもの
- (E) 兵器テクノロジーの情報を暴露するもの
- (F) 現行の軍事戦争計画を暴露するもの
- (G) 外交活動を弱体化させるような情報を暴露するもの
- (H) 大統領その他の保護に当たる政府官吏の能力を損なうような情報を暴露するもの
- (I) 現行の国家安全保障非常事態準備計画を損なう情報を暴露するもの
- (J) 条約または国際協定に違反するもの

である。機密解除の例外となるこれらの事由はきわめて個別的具体的であり、記録を公開しないという判断は、それが上記（A）から（J）までの事由のいずれかにおいて「有害であると省庁の長が決定した場合にのみ許され」、しかも「かかる決定を行った省庁の長官は、上院司法委員会と下院政府改革監視委員会を含む適切な管轄権を備えた議会の委員会に、直ちにそれを報告するもの」とされている⁽²⁾。

このような性格のため、IWG資料では、ナチス関係と日本帝国関係とは区別されておらず、索引も一つで、一緒に整理され、ボックス内でも混在している。ナチス関係が圧倒的な120万頁の記録・資料の中に、日本関係の約10万頁が点在している。このことは同時に、アメリカのヨーロッパ政策とアジア政策が一对で了解できる、冷戦史研究上のメリットでもある。これらについてはすでに、英語版 Wikipedia で立項され、概略が説明されている⁽³⁾。

これらナチス・日本帝国戦犯文書についての公開状況は、IWG 文書として、インターネット上の米国国立公文書館 (NARA) オフィシャル・サイトに、ファイル名・個人名・資料番号まで公開されている。だから、日本関係10万頁の機密解除資料にどのようなものがあるかは、NARA ホームページの資料リスト・索引で、日本にいても概要を知ることができる⁽⁴⁾。ただし、ファイル現物の閲覧は、ワシントン DC 近郊 (メリーランド) の NARA II (別館) でのみ可能である。

その第一は、個人ファイルである。ネーム・ファイル Name Files と呼んで、CIA、ARMY (陸軍情報部 MIS)、FBI 関係の人名ごとにファイルに分類され、その人物に関する情報・資料がまとまった形で保存されている。『CIA 日本人ファイル』全12巻は、これらの中の CIA によって収集され機密解除された個人ファイルを収録したものである。

第二は、サブジェクト・ファイル Subject Files、すなわち問題別ファイルである。日本の中国大陸における諜報活動とか、欧米での情報戦とか、テーマに即してまとまったファイルが、CIA だけでも200冊以上ある。ただし、マスコミからの照会の多い、占領期日本の三大事件 (下山事件、三鷹事件、松川事件) と G2 キャンオン機関や CIA の関連を示唆する謀略の資料は、個人ファイル類を含め、今のところ見つかっていない。

第三に、ビジネス・ファイルと呼ぶべきファイル群がある。まとまったかたちでは、ナチス・日本帝国戦犯記録とは別に、2008年8月に公開された、CIA の前身 OSS (米戦略情報局) の OSS Official Personal Files (RG226) 3万5000人分75万頁で、OSS に勤務した人々の雇用契約、契約時の履歴書、勤務地と職務内容、給与・昇給・昇進、転勤・退職等の記録が収録されている。このほか、CIA や MIS のファイルでも、履歴書や居住・家族情報などが綴じ込まれている場合が通例である。

全体のファイルは、米国国立公文書館の機密解除の通例にならって、史資料を所管していた政府機関別に分類されている。

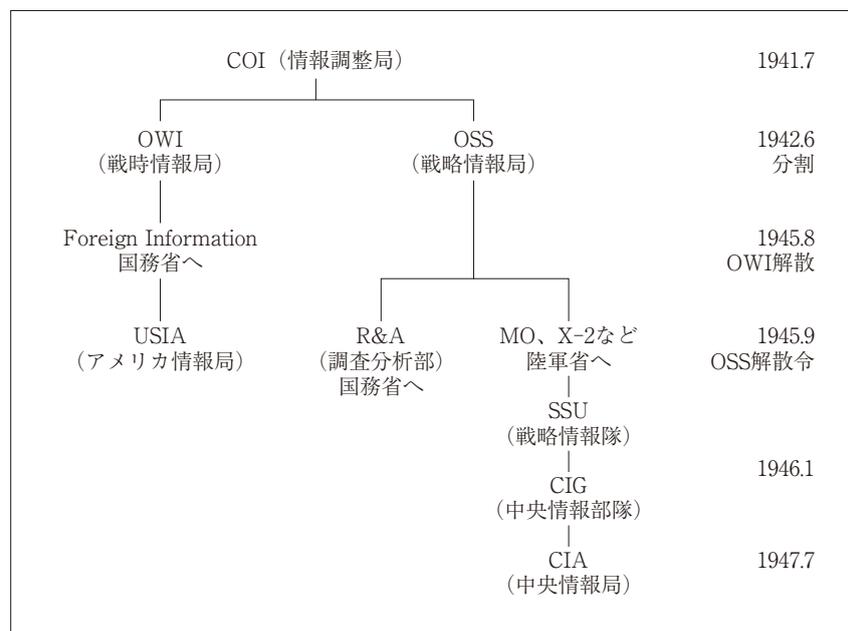
IWG 「ナチス・日本帝国戦争犯罪記録」については、
国務省 Department of State (記録群 Record Group 59)
外国郵便局 Foreign Service Posts (RG84)
連邦捜査局 FBI (RG65)
海外資産局 Office of Alien Property (RG131)
戦略情報局 OSS (RG226)
ロバート委員会 (The Roberts Commission, Records of the American Commission for the Protection and Salvage of Artistic and Historic Monuments in War Areas, RG239)
中央情報局 CIA (RG263)
陸軍 Army (RG319, Army Intelligence and Security Command (INSCOM) プラス Records of the Investigative Records Repository (IRR)
Records of the Office of the Secretary of Defense (RG 330)
Records of the United States Army Commands (RG 338)
U.S. Army Forces in the China-Burma-India Theaters of Operation (RG493)

National Archives Collection of Foreign Records Seized (RG242) などに分類され、整理されている⁽⁵⁾。

海軍情報部 (ONI) や国家安全保障局 (NSA) はここにはないが、個々のファイルには別の政府機関がもともと作成・収集した資料が入っている場合もある。それぞれの内部分類もウェブ上でカタログ化されているから、おおまかな内容は、ウェブ上で知ることができる。ただし、現物を NARA 別館で見ると、個人ファイルでも貴重な情報が満載されている場合もあれば、履歴書 1 枚だけという場合もある。

なお、CIA 所蔵の機密文書は、もともと第二次世界大戦開始時に始められた米国の本格的インテリジェンス活動の、諸機関による収集資料の歴史的蓄積である。特にナチス及び日本帝国の戦争犯罪を扱う IWG 資料には、ファイルに CIA の名前が出てくるものは稀で、1941年 7 月創設の情報調整局 (COI, Office of the Coordinator of Information)、COI が1942年 6 月に改組・分割された戦略情報局 (OSS, Office of Strategic Service) と戦時情報局 (OWI, Office of War Information)、1945年 9 月に OSS が解散した後の陸軍・戦略情報隊 (SSU, Strategic Services Unit)、中央情報部隊 (CIG, Central Intelligence Group) を経て、1947年 7 月中央情報局 (CIA) 設立にいたる各機関の名称 (多くの場合、略称) で情報が収集され、交信され、新組織に移管されている。読者の便宜のために、編者の『象徴天皇制の起源』に掲げた下図⁽⁶⁾を記しておく。

図1 COI から OSS、CIA への系譜



出所：山本武利「ブラック・プロパガンダ」岩波書店、2002年、22頁をもとに作成。

2 CIA 問題別ファイル——第一次公開から第二次公開へ

本資料集に収録したのは、RG263, CIA Subject Files の中の、日本に関するファイル群で

ある。

Subject Files の場合も、Name Files の場合と同様に、分量的には CIA よりも ARMY (陸軍情報部 MIS) の方が多いが (RG319, Impersonal Files, 143 Boxes)、CIA の場合は、おおむね 2005 年 2 月以前に機密解除された First Release (Subject Files, 8 Boxes) と、その後に機密解除された Second Release (64 Boxes) に分かれる。

ただし、First Release で機密解除された Subject は、基本的にその後の Second Release に引き継がれ、First Release では墨塗や [] で抹消されていた人名・暗号名などが Second Release では復元されて出てきたり、文書が追加・補充されている場合がある。

本資料集では、『CIA 日本人ファイル』の場合にならって、First Release を参照しつつ、Second Release を底本として収録し、大きな異同があったり、同一文書のタイプ複写が First Release の方が鮮明で読みやすい場合に限って、First Release を採録することにした。

First Release の 8 Boxes のリストは、以下のようにわかりやすく表記されており、ゴシック体にした日本関係ファイルも、簡単に抽出できた⁽⁷⁾。

Records of the Central Intelligence Agency (Record Group 263)

Index of Subject Files - First Release

Entry ZZ-17

Subject File Title	Vol #	RC Box #	RC Location
Analysis of the Personality of Adolph Hitler		01	230/902/64/1
Army/CIC Nets in Eastern Europe		01	230/902/64/1
Axis Intelligence in Switzerland		01	230/902/64/1
Career of Heinrich Himmler		01	230/902/64/1
CIA and the Origins of the BND, 1945-49	01	01	230/902/64/1
CIA and the Origins of the BND, 1945-49	02	02	230/902/64/1
Concentration Camps/Persecution of Jews		02	230/902/64/1
German Concentration Camps		02	230/902/64/1
German Intelligence Activities in China during World War II		02	230/902/64/1
German Intelligence Service (WWII)	01	02	230/902/64/1
German Intelligence Service (WWII)	02	03	230/902/64/1
German Intelligence Service (WWII)	03	03	230/902/64/1
German Intelligence Service (WWII)	04	03	230/902/64/1
German Plans for the Invasion of England, 1940		03	230/902/64/1
Hitler Youth Organization		04	230/902/64/1
Intelligence & Abwehr Personnel in Soviet Captivity		04	230/902/64/1
Interrogation Reports		04	230/902/64/1
Japanese in Europe (World War II)		04	230/902/64/1
Japanese Intelligence Organizations in China (World War II)		05	230/902/64/1
Looted Assets		05	230/902/64/1
Nazi Escape Routes to Argentina		05	230/902/64/1
Nazi Escape Routes/South America		05	230/902/64/1

Nazis in South America	01	05	230/902/64/1
Nazis in South America	02	05	230/902/64/1
Nazis in South America	03	05	230/902/64/1
Nazis in South America	04	06	230/902/64/1
Nazis in South America	05	06	230/902/64/1
Nazis in South America	06	06	230/902/64/1
Nazis in South America	07	06	230/902/64/1
Nazis/West Germany Post World War II		06	230/902/64/1
Poland Under Nazi Rule, 1941		06	230/902/64/1
Project PAPERCLIP		06	230/902/64/1
Psychological Analysis of Adolph Hitler		06	230/902/64/1
Restitution for Jewish Families in Holland		06	230/902/64/1
Review of OSS Chain, 1942		07	230/902/64/1
Soviet Justice by Walter Chylinski		07	230/902/64/1
Story of the Sauerkrauts		07	230/902/64/1
Studies in Intelligence Articles		07	230/902/64/1
Tientsin, China Card Files: OSS, SSU, CIG		07	230/902/64/1
Tripartite Gold Commission		07	230/902/64/1
Waldheim Profiles		08	230/902/64/1
Wartime Activities of German Diplomatic and Military Services during World War II		08	230/902/64/1
What the Germans are Saying		08	230/902/64/1
Who's Who in Nazi Germany, 1944		08	230/902/64/1

ところが、Second Release では、飛躍的に主題・文書数が補充され、Box 数でいえば64箱と、8倍化した。やや長く煩瑣になるが、本書の編集方針に関わるので、以下に全容を示しておく⁽⁸⁾。ゴシック斜体は、本書所収のファイルである（ただしゴチック正体の Studies in Intelligence は収録を断念、後述）。

Entry ZZ-19

Subject File Title	Vol #	RC Box #	Location (RC)
AEACRE	01	0001	230/86/24/07
AEACRE	02	0001	230/86/24/07
AEACRE	03	0001	230/86/24/07
AEACRE	04	0001	
AEBALCONY		0002	230/86/24/07
AECARRERA		0002	230/86/24/07
AECHAMP	01	0002	230/86/24/07
AECHAMP	02	0002	230/86/24/07
AECOB/ZRLYNCH	01	0002	230/86/24/07
AECOB/ZRLYNCH	02	0003	230/86/24/07
AECOB/ZRLYNCH	03	0003	230/86/24/07
AEDEPOT	01	0003	230/86/24/07
AEDEPOT	02	0003	230/86/24/07
AEDEPOT	03	0004	230/86/25/01

AEDEPOT	04	0004	230/86/25/01
AEDOGMA/AEBATH		0005	230/86/25/01
AEFLAG		0005	230/86/25/01
AEFREEMAN (INCLUDES AEBASIN, AEFLAG, AEPOLE, AECHAMP)		0005	230/86/25/01
AEMANNER		0005	230/86/25/01
AEMARSH		0006	230/86/25/01
AEPRIMER		0006	230/86/25/01
AEQUOR	01	0006	230/86/25/01
AEQUOR	02	0006	230/86/25/01
AEQUOR	03	0007	230/86/25/01
AERODYNAMIC 01: DEVELOPMENT AND PLANS	01	0007	230/86/25/01
AERODYNAMIC 02: DEVELOPMENT AND PLANS	02	0008	230/86/25/01
AERODYNAMIC 03: DEVELOPMENT AND PLANS	03	0008	230/86/25/01
AERODYNAMIC 04: DEVELOPMENT AND PLANS	04	0009	230/86/25/01
AERODYNAMIC 05: DEVELOPMENT AND PLANS	05	0009	230/86/25/01
AERODYNAMIC 06: DEVELOPMENT AND PLANS/SUPPORT	06	0009	230/86/25/01
AERODYNAMIC 07: DEVELOPMENT AND PLANS	07	0009	230/86/25/01
AERODYNAMIC 08: DEVELOPMENT AND PLANS/FINANCIAL STATEMENTS	08	0009	230/86/25/01
AERODYNAMIC 09: OPERATIONS	09	0009	230/86/25/01
AERODYNAMIC 10: OPERATIONS	10	0010	230/86/25/01
AERODYNAMIC 11: OPERATIONS	11	0010	230/86/25/01
AERODYNAMIC 12: OPERATIONS	12	0010	230/86/25/01
AERODYNAMIC 13: OPERATIONS	13	0011	230/86/25/02
AERODYNAMIC 14: OPERATIONS	14	0011	230/86/25/02
AERODYNAMIC 15: OPERATIONS	15	0011	230/86/25/02
AERODYNAMIC 16: OPERATIONS	16	0012	230/86/25/02
AERODYNAMIC 17: OPERATIONS	17	0012	230/86/25/02
AERODYNAMIC 18: OPERATIONS	18	0012	230/86/25/02
AERODYNAMIC 19: OPERATIONS	19	0013	230/86/25/02
AERODYNAMIC 20: OPERATIONS	20	0013	230/86/25/02
AERODYNAMIC 21: OPERATIONS	21	0014	230/86/25/02
AERODYNAMIC 22: OPERATIONS	22	0014	230/86/25/02
AERODYNAMIC 23: OPERATIONS	23	0014	230/86/25/02
AERODYNAMIC 24: OPERATIONS	24	0015	230/86/25/02
AERODYNAMIC 25: OPERATIONS	25	0015	230/86/25/02
AERODYNAMIC 26: OPERATIONS	26	0015	230/86/25/02
AERODYNAMIC 27: OPERATIONS	27	0016	230/86/25/02
AERODYNAMIC 28: OPERATIONS	28	0016	230/86/25/02
AERODYNAMIC 29: OPERATIONS	29	0016	230/86/25/02
AERODYNAMIC 30: OPERATIONS	30	0017	230/86/25/02
AERODYNAMIC 31: OPERATIONS	31	0017	230/86/25/02
AERODYNAMIC 32: OPERATIONS	32	0018	230/86/25/03
AERODYNAMIC 33: OPERATIONS	33	0018	230/86/25/03
AERODYNAMIC 34: OPERATIONS	34	0019	230/86/25/03
AERODYNAMIC 35: OPERATIONS	35	0019	230/86/25/03
AERODYNAMIC 36: OPERATIONS	36	0020	230/86/25/03
AERODYNAMIC 37: OPERATIONS	37	0020	230/86/25/03

AERODYNAMIC 38: OPERATIONS	38	0021	230/86/25/03
AERODYNAMIC 39: OPERATIONS	39	0021	230/86/25/03
AERODYNAMIC 40: OPERATIONS	40	0022	230/86/25/03
AERODYNAMIC 41: OPERATIONS/DISPATCHES	41	0022	230/86/25/03
AERODYNAMIC 42: CONTACT REPORTS	42	0022	230/86/25/03
AERODYNAMIC 43: CONTACT REPORTS	43	0022	230/86/25/03
AERODYNAMIC 44: CONTACT REPORTS	44	0023	230/86/25/03
AERODYNAMIC 45: CONTACT REPORTS	45	0023	230/86/25/03
AERODYNAMIC 46: CONTACT REPORTS/PRODUCTION	46	0023	230/86/25/03
AERODYNAMIC 47: CONTACT REPORTS	47	0023	230/86/25/03
AEROOT/AEBASIN		0023	230/86/25/03
AESAURUS/AENOBLE	01	0024	230/86/25/03
AESAURUS/AENOBLE	02	0024	230/86/25/03
AESAURUS/AENOBLE	03	0024	230/86/25/03
AEVIRGIL	01	0025	230/86/25/04
AEVIRGIL	02	0025	230/86/25/04
AEVIRGIL	03	0025	230/86/25/04
ARMY/CIC NETS IN EASTERN EUROPE		0026	230/86/25/04
AXIS INTELLIGENCE IN SWITZERLAND, 1944		0026	230/86/25/04
BECRIPPLE		0026	230/86/25/04
BESMIRCH		0026	230/86/25/04
BGCONVOY		0026	230/86/25/04
CABATON	01	0026	230/86/25/04
CABATON	02	0026	230/86/25/04
CABATON	03	0027	230/86/25/04
CADROIT/QKFEARFUL		0027	230/86/25/04
CADROWN		0027	230/86/25/04
CAGENERAL		0027	230/86/25/04
CAREER OF HEINRICH HIMMLER		0028	230/86/25/04
CATOMIC	01	0028	230/86/25/04
CATOMIC	02	0028	230/86/25/04
CATOPHAT		0028	230/86/25/04
CATRANSIT		0028	230/86/25/04
CIA & NAZI WAR CRIMINALS & COLLABORATORS. CHAPTER 1 -10. DRAFT WORKING PAPER	01	0029	230/86/25/04
CIA & NAZI WAR CRIMINALS & COLLABORATORS. CHAPTER 11-21. DRAFT WORKING PAPER.	02	0029	230/86/25/04
CIA AND THE ORIGINS OF THE BND, 1945-1949	01	0030	230/86/25/04
CIA AND THE ORIGINS OF THE BND, 1945-1949	02	0030	230/86/25/04
CIA AND THE ORIGINS OF THE BND, 1949-1956	01	0031	230/86/25/04
CIA AND THE ORIGINS OF THE BND, 1949-1956	02	0031	230/86/25/04
CONCENTRATION CAMPS/PERSECUTION OF JEWS		0032	230/86/25/05
DEPORTATION OF JEWS FROM THE NETHERLANDS IN 1942 (FORMER TITLE: RESTITUTION FOR JEWISH FAMILIES IN HOLLAND)		0032	230/86/25/05
DTLINEN		0032	230/86/25/05
DTLINEN - KgU	01	0032	230/86/25/05
DTLINEN - KgU	02	0033	230/86/25/05
DTPILLAR	01	0033	230/86/25/05

DTPILLAR	02	0034	230/86/25/05
DTPILLAR	03	0034	230/86/25/05
ESCAPEE PROGRAM REPORT		0034	230/86/25/05
FELFE, HEINZ: DAMAGE ASSESSMENT REPORT		0034	230/86/25/05
FELFE, HEINZ: KGB EXPLOITATION		0035	230/86/25/05
GERMAN CONCENTRATION CAMPS		0035	230/86/25/05
GERMAN INTELLIGENCE ACTIVITIES IN CHINA DURING WWII, 1946		0035	230/86/25/05
GERMAN INTELLIGENCE SERVICE WWII	01	0035	230/86/25/05
GERMAN INTELLIGENCE SERVICE WWII	02	0036	230/86/25/05
GERMAN INTELLIGENCE SERVICE WWII	03	0036	230/86/25/05
GERMAN INTELLIGENCE SERVICE WWII	04	0036	230/86/25/05
GERMAN PLANS FOR INVASION OF ENGLAND, 1940. OPERATION "SEALION."		0036	230/86/25/05
GRCROOND/GRREPAIR	01	0036	230/86/25/05
GRCROOND/GRREPAIR	02	0037	230/86/25/05
GRCROOND/GRREPAIR	03	0037	230/86/25/05
GRCROOND/GRREPAIR	04	0037	230/86/25/05
GREEK/HELLENIC INFORMATION BULLETIN, 1942-1944		0038	230/86/25/05
HARVARD	01	0038	230/86/25/05
HARVARD	02	0038	230/86/25/05
HITLER YOUTH ORGANIZATION (US ARMY)		0038	230/86/25/05
ICEBERG		0039	230/86/25/06
INTELLIGENCE AND ABWEHR PERSONNEL IN SOVIET CAPTIVITY DURING WWII		0039	230/86/25/06
INTERROGATION REPORTS		0039	230/86/25/06
IVY (PLAN)		0039	230/86/25/06
<i>JAPANESE IN EUROPE (WWII)</i>		0039	230/86/25/06
<i>JAPANESE INTELLIGENCE ORGANIZATIONS IN CHINA (WWII)</i>		0040	230/86/25/06
KIBITZ OPERATIONAL PROJECT	01	0040	230/86/25/06
KIBITZ OPERATIONAL PROJECT	02	0041	230/86/25/06
KMMANLY		0041	230/86/25/06
LCCASSOCK	01	0041	230/86/25/06
LCCASSOCK	02	0041	230/86/25/06
LCCASSOCK	03	0042	230/86/25/06
LCPROWL	01	0042	230/86/25/06
LCPROWL	02	0042	230/86/25/06
LCPROWL	03	0043	230/86/25/06
LCPROWL	04	0043	230/86/25/06
LOOTED ASSETS		0043	230/86/25/06
MHBK [WORLD FEDERATION OF HUNGARIAN VETERANS]	01	0043	230/86/25/06
MHBK [WORLD FEDERATION OF HUNGARIAN VETERANS]	02	0044	230/86/25/06
MHBK [WORLD FEDERATION OF HUNGARIAN VETERANS]	03	0044	230/86/25/06
NAZI ESCAPE ROUTES TO ARGENTINA		0044	230/86/25/06
NAZI ESCAPE ROUTES/SOUTH AMERICA		0044	230/86/25/06
NAZI WAR CRIMES RESEARCH REPORT (K. RUFFNER)		0044	230/86/25/06
NAZIS IN SOUTH AMERICA	01	0045	230/86/25/06
NAZIS IN SOUTH AMERICA	02	0045	230/86/25/06
NAZIS/ W. GERMANY POST WWII		0045	230/86/25/06

OB DURATE		0045	230/86/25/06
OBOPUS/BGFIEND	01	0045	230/86/25/06
OBOPUS/BGFIEND	02	0046	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	03	0046	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	04	0046	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	05	0046	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	06	0047	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	07	0047	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	08	0047	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	09	0047	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	10	0048	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	11	0048	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	12	0048	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	13	0048	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	14	0048	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	15	0049	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	16	0049	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	17	0049	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	18	0049	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	19	0050	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	20	0050	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	21	0050	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	22	0051	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	23	0051	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	24	0051	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	25	0052	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	26	0052	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	27	0052	230/86/25/07
OBOPUS/BGFIEND	28	0053	230/86/26/01
OBOPUS/BGFIEND	29	0053	230/86/26/01
OBOPUS/BGFIEND	30	0053	230/86/26/01
OBOPUS/BGFIEND	31	0053	230/86/26/01
PAPER MILLS AND FABRICATION		0054	230/86/26/01
PAPERCLIP (PROJECT)		0054	230/86/26/01
PASTIME	01	0054	230/86/26/01
PASTIME	02	0054	230/86/26/01
PBSTEAM		0054	230/86/26/01
POLAND UNDER NAZI RULE, 1941		0054	230/86/26/01
QKACTIVE	01	0055	230/86/26/01
QKACTIVE	02	0055	230/86/26/01
QKACTIVE	03	0055	230/86/26/01
QKACTIVE	04	0055	230/86/26/01
QKACTIVE	05	0056	230/86/26/01
QKACTIVE	06	0056	230/86/26/01
QKACTIVE	07	0056	230/86/26/01
QKACTIVE	08	0056	230/86/26/01
QKACTIVE	09	0056	230/86/26/01
QKACTIVE	10	0057	230/86/26/01
QKBOIL		0057	230/86/26/01

QKDEMON	01	0057	230/86/26/01
QKDEMON	02	0057	230/86/26/01
QKDEMON	03	0058	230/86/26/01
QKDEMON	04	0058	230/86/26/01
QKDROOP		0058	230/86/26/01
QRPLUMB	01	0058	230/86/26/01
QRPLUMB	02	0059	230/86/26/01
QRPLUMB	03	0059	230/86/26/01
QRPLUMB	04	0059	230/86/26/01
QRPLUMB	05	0059	230/86/26/01
REDCAP		0060	230/86/26/02
REVIEW OF OSS CHAIN, 1942		0060	230/86/26/02
SATURN OPERATIONAL PROJECT		0060	230/86/26/02
SOVIET JUSTICE BY WALTER CHYLINSKI		0060	230/86/26/02
STORY OF THE SAUERKRAUTS		0060	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: A CONTRARY JAPANESE ARMY INTELLIGENCE OFFICER		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: A FUTILE FLING WITH SEXSPIONAGE IN AUSTRIA		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: AMERICAN INTELLIGENCE AND THE GEHLEN ORGANIZATION, 1945-49		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: BEHIND JAPANESE LINES IN BURMA		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: CIA'S SUPPORT TO THE NAZI WAR CRIMINAL INVESTIGATIONS		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: COLD WAR ALLIES: THE ORIGINS OF CIA'S RELATIONSHIP WITH UKRANIAN NATIONALISTS		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: FBIS AGAINST THE AXIS, 1941-1945		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: JAPANESE ARMY INTELLIGENCE ACTIVITIES AGAINST THE UNITED STATES, 1941-1945		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: KURT WALDHEIM AND THE CENTRAL INTELLIGENCE AGENCY		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: ON THE TRAIL OF NAZI COUNTERFEITERS		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: OSS MISSION TO THE BURGUNDIAN MAQUIS		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: OSS PROPAGANDA IN EUROPE AND THE FAR EAST		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: PROJECT SYMPHONY: US INTELLIGENCE AND THE JEWISH BRICHAH IN POST-WAR AUSTRIA		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: SOLDIERS, SPIES, AND THE RAT LINE: AMERICA'S UNDECLARED WAR AGAINST THE SOVIETS		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: THE CASE OF OTTO ALBRECHT ALFRED VON BOLSCHWING		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: THE DUTCH RESISTANCE AND THE OSS		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: THE JAPANESE ARMY'S NAKANO SCHOOL, 1938-45		0061	230/86/26/02

STUDIES IN INTELLIGENCE: THE OSS AND ITALIAN PARTISANS IN WORLD WAR II		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: THE OSS AND PROJECT SAFEHAVEN		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: THE OSS AND THE MAGINOT AND SIEGFRIED LINES		0061	230/86/26/02
STUDIES IN INTELLIGENCE: THE POND: RUNNING AGENTS FOR STATE, WAR, AND THE CIA		0061	230/86/26/02
SYMPHONY (PROJECT)	01	0061	230/86/26/02
SYMPHONY (PROJECT)	02	0061	230/86/26/02
<i>TIENTSIN, CHINA CARD FILES (OSS, CIG, SSU)</i>		0062	230/86/26/02
TILESTONE		0062	230/86/26/02
TPMURILLO	01	0062	230/86/26/02
TPMURILLO	02	0062	230/86/26/02
TRIDENT		0062	230/86/26/02
TRIPARTITE GOLD COMMISSION		0063	230/86/26/02
UJDROLLERY	01	0063	230/86/26/02
UJDROLLERY	02	0063	230/86/26/02
UJDROLLERY	03	0063	230/86/26/02
USTASHA ACTIVITIES		0063	230/86/26/02
WARTIME ACTIVITIES OF GERMAN DIPLOMATIC AND MILITARY SERVICES DURING WWII		0064	230/86/26/02
WHAT THE GERMANS ARE SAYING		0064	230/86/26/02
WHO'S WHO IN NAZI GERMANY		0064	230/86/26/02

First Release では、ナチや日本についてのどのような問題のファイルであるかは、その英語表現からある程度類推でき、特定できた。ところが Second Release では、英語でも意味の通じない大量の Subject が追加されており、それがナチス関係文書か、日本帝国関係文書かもわからない構成となった。

ただし、First Release の Studies in Intelligence Articles に限っては、内部が細分され、STUDIES IN INTELLIGENCE: A CONTRARY JAPANESE ARMY INTELLIGENCE OFFICER のような個別のタイトルがつけられたために、ナチス関係と日本関係の識別が容易になった。

3 第二次公開で明るみに出た CIA の暗号・特殊作戦・秘密工作

First Release にはなく、Second Release で追加された Subject には、AEACRCE や LCPROWL, QKDEMON など、全く意味をなさない問題名が並ぶ。やや類推可能な AERODYNAMIC は、それだけで全47巻、15Boxes を占める大部の資料となっている。

そこで、これらは Name Files でも使われた CIA 文書特有の暗号名ではないかと思いを付けて、『CIA 日本人ファイル』「解説」でも参照し、暗号解読に用いた、全64頁（当初の59頁から増補改訂）の The CIA Lexicon: Finding Aid for the Second Release を参照することにした。この暗号解読の手引書も、ウェブ上に公開されている⁽⁹⁾。

すると、Second Release で新たに追加されたほとんどの Subject Files が、暗号名で記された CIA の戦後の特殊作戦・秘密工作に関わるものであることが解った。

AEACRE	AEACRE (1952-64) established a mechanism for the planning and conduct of REDSOX operations via a Domestic Operations Base (DOB) used for the interrogation, assessment, training, briefing, and preparation for dispatch of agents for infiltration into the USSR. Aleks Kurgvel, Tscherim Soobzokov associated with Project.
AEBALCONY	AEBALCONY (1960-62) was designed to use U.S. citizens with Baltic language fluency in "mounted" and "piggy-back" legal traveler operations into Soviet-occupied Estonia, Latvia, and Lithuania. Jouzas Brazaitis, Vilis Hazners, Edgars Laipenieks associated with Project.
AECARRERA	AECARRERA (1953-58) exploited REDCAP opportunities (collection of information on Soviets stationed abroad) arising out of the propaganda distributed by AEVIRGIL and collected positive intelligence through debriefings of East German nationals visiting the AECARRERA office in Berlin in response to AEVIRGIL materials ballooned into East Germany. Wilhelm Gruenwaldt associated with Project.
AECOB	AECOB, approved in 1950, was a vehicle for foreign intelligence (FI) operations into and within Soviet Latvia and involved infiltration and exfiltration of black agents and the recruitment of legally resident agents in the USSR, especially Latvia. ZRLYNCH was approved in 1950 for use of the Latvian Resistance Movement, which had been formed in 1944, as a vehicle for clandestine activities within the USSR. ZRLYNCH was renewed in 1952 as a part of AECOB, which then provided both FI and political and psychological (PP) activities. AECOB / ZRLYNCH PP project was terminated in 1955. AECOB FI project was terminated in 1959. Roberts Ancans, Andrejs Apsits, Nikolajs Balodis, Arturs Brombergs, Freds Launags, Edvins Ozolins, Janis Ozolins, Janis Presnikovs, Alfreds Riekstins, Peteris Rungis, Ilmars Rupners, Arturs Stankevics, Vidvuds Sveics, Voldis Viksna associated with Project. Janis Ozols considered for possible use on Project.
AEDEPOT	AEDEPOT (formerly AEREADY) (1957-65) was designed to provide a trained "Hot War" cadre of agents who could be used during a period of heightened tensions/increased alert or during actual hostilities against the Soviet Union. Mikola Abramtchik, Constantine Mierlak, Tscherim Soobzokov associated with Project.
AEDOGMA	AEDOGMA / AEBATH (1947-61), which supported the activities of the Principal Agent (PA), Michael Korzhan, was designed to produce CI/CE information on two Ukrainian nationalist groups in Germany; positive intelligence on other Ukrainian groups in Germany and Western Europe; information on Soviet penetration of Orthodox churches; and miscellaneous CE and other support activities beginning in 1947. In 1959, the PA was transferred to Paris to report on the efforts of the Soviet Services in emigre circles; and to act as a spotter in Soviet emigre circles for REDSKIN opportunities. The PA was not very productive in Paris and the project was terminated in 1961.
AEFLAG	AEFREEMAN (1953-64), which included AEBASIN/AEROOT (1953-60), AEFLAG (1955-62), and AEPOLE (formerly AECHAMP (1949-59)), was designed to strengthen resistance to communism and harrass the Soviet regime in the Baltic countries. AEBASIN/AEROOT supported Estonian emigres and émigré activities against the Estonian SSR. AEFLAG was aimed at people of the Latvian SSR. AEPOLE (formerly AECHAMP (formerly BGLAPIN)) targeted the Lithuanian SSR. These projects provided intelligence and operational data from Baltic countries through radio broadcasts, mailing operations, liaison with emigre organizations, political and psychological (PP) briefings for legal travelers and exploitation of other media such as demonstrations. Aleks Kurgvel,

	Elmar Lipping, Romulus Mandel associated with AEBASIN/AEROOT Project. Vilis Hazners associated with AEFLAG Project. Antanas Bernotas, Jouzas Brazaitis, Stasys Rastikis associated with AEPOLE Project. Alexandras Lileikis associated with AECHAMP Project. Ilgvars Skaistlauks considered for possible use on AECHAMP Project.
AEFREEMAN	AEFREEMAN (1953-64), which included AEBASIN/AEROOT (1953-60), AEFLAG (1955-62), and AEPOLE (formerly AECHAMP (1949-59)), was designed to strengthen resistance to communism and harrass the Soviet regime in the Baltic countries. AEBASIN/AEROOT supported Estonian emigres and émigré activities aganist the Estonian SSR. AEFLAG was aimed at people of the Latvian SSR. AEPOLE (formerly AECHAMP (formerly BGLAPIN)) targeted the Lithuanian SSR. These projects provided intelligence and operational data from Baltic countries through radio broadcasts, mailing operations, liaison with emigre organizations, political and psychological (PP) briefings for legal travelers and exploitation of other media such as demonstrations. Aleks Kurgvel, Elmar Lipping, Romulus Mandel associated with AEBASIN/AEROOT Project. Vilis Hazners associated with AEFLAG Project. Antanas Bernotas, Jouzas Brazaitis, Stasys Rastikis associated with AEPOLE Project. Alexandras Lileikis associated with AECHAMP Project. Ilgvars Skaistlauks considered for possible use on AECHAMP Project.
AEMANNER	AEMANNER (1955-58) was an operation to collect intelligence on the Lithuanian SSR by spotting, recruiting, and training Lithuanians who planned to return to Lithuania; spotting, recruiting, and training Lithuanian merchant seamen who would be on vessels calling at Lithuanian SSR ports; exploiting existing postal channels between Lithuanian SSR and the West; and interrogating persons coming out of the Lithuanian SSR. Ignatz Apyrubis and Alexandras Lileikis associated with Project.
AEMARSH	AEMARSH (1953-59) involved collecting foreign intelligence on the Soviet regime in Latvia through sources residing in the Latvian SSR, legal travelers, and all possible legal means. The Institute for Latvian Culture (AEMINX) was established as a cover facility engaged in the preservation and development of Latvian national culture, collection of information on Latvian national life, and the safeguarding and preserving of physical, spiritual, and moral conditions of Latvians who were separated from their homeland. Alfreds Berzins, Aleksandrs Burmeisters, Janis Cirulis, Vilis Hazners, Peteris Janelsins, Freds Launags, Herberts Zagars associated with Project.
AEPRIMER	AEPRIMER's (1957-59) objective was to establish long-term, durable assets illegally infiltrated into the Byelorussian SSR. Candidates for these assets were to be recommended by the Byelorussian National Council (BNR). However, AEQUOR/FI had similar objectives and was terminated in 1956 when information about AEQUOR Team 2 in Byelorussia surfaced in Pravda. In addition, AEQUOR's relationship with the BNR was terminated for security reasons. AEPRIMER's association with the BNR was limited to its President (Mikola Abramtchik) and his representative (Francis Kushel) in New York. AEPRIMER was terminated in 1959. Constantine Mierlak associated with Project.
AEQUOR	AEQUOR Project (1951-62) involved operations into Byelorussia through the exploitation of the Byelorussia National Council (BNR), and later evolved into primarily supporting the publication of a Byelorussian language weekly newspaper. Mikola Abramtchik, Francis Kushel, Boris Ragula, Stanislaw Stankiewicz, Vitaut Tumash associated with Project. See AEPRIMER.
	AERODYNAMIC (formerly CARTEL, ANDROGEN, AECARTHAGE) (1949-70) refers to CIA support for ZP/UHVR (Ukrainian Supreme Liberation Council), which began in 1949. CIA helped to establish in New York City the Prolog Research and Publishing Company in 1953 as ZP/UHVR's publishing and

AERODYNAMIC	research arm. Prolog, through an affiliate in Munich, published periodicals and selected books and pamphlets which sought to exploit and increase nationalist and other dissident tendencies in the Soviet Ukraine. ZP/UHVR operational activity concentrated on propaganda and contact operations. In 1970, AERODYNAMIC was redesignated QRPLUMB. The file includes AERODYNAMIC Development and Plans (Vol. 1-8), Operations (Vol. 9-41), and Contact Reports (Vol. 42-47). Yaroslav Fedyk, Ivan Hrinioch, Mykola Lebed, Yury Lopatinsky, Lyubomir Ortinskiy associated with Project. Roman Tymewycz a clerical employee in Branch Office of Project AERODYNAMIC.
AEVIRGIL	AEVIRGIL (1953-63) provided a controlled, anti-communist émigré organization for political and psychological activities against the Soviet target. The particular émigré organization, which was called the Central Association of Post-War Emigres (TsOPE) and located in Munich, produced and disseminated Russian language leaflets and a monthly magazine (Svoboda), held propaganda meetings and press conferences, and was engaged in psychological warfare against the Soviet target. Wilhelm Gruenwaldt associated with Project.
BECRIPPLE	BECRIPPLE Project (1954-60) provided Polish operations run from Berlin and other Stations/Bases with support assets such as a secure safehouse on the economy; garage for a German plated vehicle; an agent/cutout for obtaining credit investigations on persons of operational interest; an agent for monitoring local Polish emigre activity; an agent for obtaining clandestine photographs of West Berlin Polish installations and other support facilities. Hellmuth Goerz, Wilhelm Ludtke associated with Project.
BESMIRCH	BESMIRCH (1953-55) was designed to provide Polish operations with communications links over the Polish-German border through the use of legal travellers. Wilhelm Ludtke associated with Project.
CABATON	CABATON (1956-64) provided accommodation addresses in Bonn and Frankfurt. Erich Neugebauer, Johannes Hirsemann associated with Project.
CADROIT	CADROIT (formerly TPEMBER) (1949-55) subsidized and guided the Investigative Committee of Free Jurists (Untersuchungsausschuss freiheitlicher Juristen (UfJ)), which developed from one person as the head of a notional committee in West Berlin to an active organization with a West Berlin Headquarters staff of 75 and about 2,000 East German covert contacts, many from the legal profession and/or East German government. The UfJ, with CIA assistance, conducted extensive propaganda campaigns in East Germany, based mainly on information from East German informants, to expose illegal actions, breaches of justice, and acts of inhumanity committed and tolerated by authorities in East Germany. An outgrowth of the UfJ-sponsored International Congress of Jurists in Berlin (1952) was the establishment of the International Commission of Jurists in The Hague, which was supported by CIA under Project QKFEARFUL. CADROIT also included CADROWN (1952-55), a paramilitary organization established in East Germany for wartime use. Helmut Casemir associated with Project CADROIT.
CADROIT	CADROIT (formerly TPEMBER) (1949-55) subsidized and guided the Investigative Committee of Free Jurists (Untersuchungsausschuss freiheitlicher Juristen (UfJ)), which developed from one person as the head of a notional committee in West Berlin to an active organization with a West Berlin Headquarters staff of 75 and about 2,000 East German covert contacts, many from the legal profession and/or East German government. The UfJ, with CIA assistance, conducted extensive propaganda campaigns in East Germany, based mainly on information from East German informants, to expose illegal actions, breaches of justice, and acts of inhumanity committed and tolerated by authorities in East Germany. An outgrowth of the UfJ-sponsored International Congress of Jurists in Berlin (1952) was the establishment of the International Commission of Jurists in The Hague, which was supported by CIA under Project

	QKFEARFUL. CADROIT also included CADROWN (1952-55), a paramilitary organization established in East Germany for wartime use. Helmut Casemir associated with Project CADROIT.
CADROIT	CADROIT (formerly TPEMBER) (1949-55) subsidized and guided the Investigative Committee of Free Jurists (Untersuchungsausschuss freier Juristen (UfJ)), which developed from one person as the head of a notional committee in West Berlin to an active organization with a West Berlin Headquarters staff of 75 and about 2,000 East German covert contacts, many from the legal profession and/or East German government. The UfJ, with CIA assistance, conducted extensive propaganda campaigns in East Germany, based mainly on information from East German informants, to expose illegal actions, breaches of justice, and acts of inhumanity committed and tolerated by authorities in East Germany. An outgrowth of the UfJ-sponsored International Congress of Jurists in Berlin (1952) was the establishment of the International Commission of Jurists in The Hague, which was supported by CIA under Project QKFEARFUL. CADROIT also included CADROWN (1952-55), a paramilitary organization established in East Germany for wartime use. Helmut Casemir associated with Project CADROIT.
CAGENERAL	CAGENERAL (1958-67) provided accommodation address custodians for Munich Operations Base clandestine operations. Richard Bleil associated with Program.
CATOMIC	CATOMIC (1970-74) superceded CATOPHAT and included access agent operations against the Soviet Embassy near Bonn and the Soviet Trade Mission near Cologne as well as operations to recruit or insert assets in West German companies which deal with the Soviet Union and Communist China. Heinrich Bandholz associated with Project.
DTLINEN	DTLINEN (formerly EARTHENWARE, GRAVEYARD) (1951-60) was a CIA covert propaganda, harassment, and sabotage activity subsidizing both the overt and covert the activities of the Kampfgruppe gegen Unmenschlichkeit (Fighting Group against Inhumanity (KgU)) against East Germany. The KgU (CAJERSEY), an overt organization, sought to expose conditions in the USSR and Soviet Zone of Germany which were considered crimes against humanity. Heinrich Otto Krause associated with Project. Erich Von Sivers considered for possible use on Project.
DTPILLAR	DTPILLAR (1951-67) refers to CIA support to The Asia Foundation, which undertook programs via private institutions in Asia to counteract the spread and appeal of communism. Karl Herczeg associated with Project. Minoru Maeda considered for possible use on Project.
GRCROOND	GRCROOND Project involved staybehind paramilitary operations in Austria to develop escape and evasion network. GRREPAIR Project developed the central section of the escape and evasion network in Austria. Egbert Hochhauser, Hans Tschurtsenthaler considered for possible use on Project GRCROOND.
HARVARD	HARVARD (1951-65) was designed initially to provide safehouse and operational aid facilities for CIA activities in Germany. In 1952, the HARVARD mission was expanded to include the rehabilitation and resettlement of defectors, agents, and agent-trainees.
ICEBERG	ICEBERG (1948-53) was Vienna Operations Base's staybehind program and selected, trained, and placed W/T operators and other types of staybehind agents in strategic locations in Eastern Austria to become active only after the outbreak of hostilities and the loss of this area to hostile forces. Karl Geist considered for possible use on Project.
KIBITZ	KIBITZ was Karlsruhe Base's program to develop a staybehind net in Germany (1949-53). Walter Kopp, Hans Rues, Eduard Woellner associated with Project.

	Anton Dukavits worked in Walter Kopp's net.
KMMANLY	KMMANLY (1951-53) was originally designed to counter the actions of pacifist and neutralist groups in West Germany who were opposed to ratification of the contractual agreements. In practice KMMANLY sought to win support for the European Defense Community (EDC) in areas of veterans' affairs and military publishing. To achieve these aims, three publications were utilized under KMMANLY -- Die Deutsche Soldaten Zeitung (The German Soldiers' Newspaper, (DSZ)), Europäische Wehrkorrespondenz (European Defense Newsletter, (EWK)), Wehr Wissenschaftliche Rundschau (Military Science Journal, (WWR)). In addition KMMANLY supported the Gesellschaft fuer Wehrkunde (GfW), a military science study group composed of former high ranking German Army officers. Wilhelm Classen (PA), Eberhard Von Nostitz, Burghard Von Preussen, Felix Steiner associated with GfW part of Project. Josef Berschneider, Hans Iglhaut, Werner Strecker considered for possible use on KMMANLY.
LCCASSOCK	LCCASSOCK (1954-61) was a publishing and distribution company in West Berlin that produced and covertly distributed propaganda material for East Germans, providing them with Western-oriented information and harrasing, embarrassing and exposing officials and policies of the East German regime. Hans Lobbes, Karl Heinz Marbach (PA), Guenther Schmidt associated with Project.
LCPROWL	LCPROWL Project (1950-53) in Germany involved anti-communist psychological warfare, accomplished by the BDJ (Bund Deutsche Jugend or League of German Youth) (KMPRUDE), and a staybehind organization that would conduct paramilitary/sabotage activities (LCPROWL BDJ Apparat) in the event of war. Alarich Bross, Friedrich Carstenn, Heinz Debrassine, Ulrich Gmelin, Karl Jobke, Franz Krombholz, Walter Menke, Hans Otto, Christian Schwarting, Eberhard Tellkamp, Helmut Vogt, Willi Weinsberg associated with Project.
MHBK	Magyar Harcosok Bajtarsi Kozossege (MHBK), the League of Hungarian Veterans, was organized by Andreas Zako after WWII as a right-wing veterans group formed from the fascist elements of the Kopjas organization and with networks throughout Europe and the Americas. The MHBK had five branches in Austria alone and worked closely with French intelligence, which financed its efforts to gather intelligence in Hungary.
OBDURATE	OBDURATE (formerly OBSTACLE, Plan CHARITY) (1954-56), incorporated into OBLONG in 1956, exploited the intelligence potential of a significant Albanian émigré group in Rome (Balli Kombetar). Xhaver Deva associated with Project.
OBOPUS	OBOPUS (formerly BGFRIEND) (1949-58) was initially a joint US-British covert action program designed to overthrow the Soviet dominated regime of Enver Hoxha in Albania and evolved into establishing and exploiting National Committee for Free Albania (NCFA), propaganda media, infiltration agents, and economic warfare. VALUABLE was the British Albanian plan. The file includes Country Plan for Albania (V. 1) ; Project Outline, Reviews, Termination (V. 2) ; OBLIVIOUS: NCFA (V. 3) ; BGFRIEND/JBPARSON: Albanian Holding/Training Camp W. Germany (V. 4) ; BGFRIEND RED Team (V. 5) ; BGFRIEND APPLE Team (V. 6) ; BGFRIEND WILLOW Team (V. 7) ; BGFRIEND-VALUABLE Leaflet Drops (V. 8) ; OBTUSE: Propaganda Campaign (V. 9) ; OBTEST: Clandestine Radio Broadcasts (V. 10) ; OBHUNT & OBSIDIOUS: Infiltration Missions (V. 11) ; BGSPEED: Vessel for Offshore Propaganda Missions (V. 12) ; BGFRIEND Operations (V. 13-30) ; Photographs (V. 31). Hasan Dosti associated with OBLIVIOUS (part of OBOPUS). Xhaver Deva Principal Agent (PA) on BGFRIEND. Destan Berisha, Ahmet Kabashi, Shaqir Kabashi associated with BGFRIEND.

PAPERCLIP	DoD project that brought German and Austrian scientists to the U.S. after WWII
PASTIME	PASTIME (1948-52) was Berlin Base's staybehind program, including trained W/T operators, agents, cutouts, and informants prepared for activation in the event of hostilities. PASTIME used some of the same people as the KIBITZ staybehind program.
QKACTIVE	QKACTIVE (1951-71), operating through a proprietary cover organization (American Committee for the Liberation of the People of the USSR (AMCOMLIB) (PBAFFIRM)), sought to conduct overt anti-Soviet activities to weaken the Soviet regime and thereby reduce its threat to world security through radio broadcasts (Radio Free Europe and Radio Liberty), the Institute for the Study of the USSR (BGCALLUS) Chaired by Stanislaw Stankiewicz, and published articles and books. Karl Toennies considered for possible use on Project QKACTIVE. See also PBCHORD.
QKDEMON	QKDEMON (formerly UMPIRE, EDUCATOR) (1949-50) was a psychological warfare project and provided the production and dissemination of covert propaganda against the Soviet Union and its satellites using radio broadcasts and printed material. Hildegard Beetz associated with Project.
REDCAP	REDCAP (1951-65) was the planned collection of information on Soviet personnel stationed abroad for the purpose of operational exploitation, including defection inducement. Sergie Shebalin associated with Project.
SATURN	SATURN (1949-61) was Gehlen Organization's (and later BND's) staybehind program for East/West Germany, and included UJLENTIL (STORCH, AFU Program, FOX, WIESEL) and NADELWALD/UJKEVEL. SATURN referenced in KIBITZ file.
SYMPHONY	Project SYMPHONY (1946-47) was an OSS/SSU project to use the influx of Jewish refugees into Austria from Rumania, Czechoslovakia, Hungary, and Poland managed by the Jewish Agency for Palestine (JAFP) in Austria (active beginning 1944 with mission of organizing and facilitating Jewish emigration to Palestine) and the Bricha (an unofficial Jewish organization active post-war that established illegal routes and guided illegal transports through Europe) for sources of CI information, to identify communists/Soviet agents among the refugees, and to gain information about the JAFP intelligence service. Asher Ben-Nathan (aka Arthur PIER), who was head of JAFP in Austria, was the chief agent (CONDUCTOR). Erich Wender (LILAC) associated with Project.
TILESTONE	TILESTONE (1946-48) involved missions into Soviet occupied Baltic States. Stasys Zymantas-Zakevicius associated with Project.
TPMURILLO	TPMURILLO (1964-74) provided personnel to conduct research on the Soviet Union based on information in overt sources with special emphasis on Soviet services, personnel, and operations. Aleks Kurgvel associated with Project.
TRIDENT	BELLADONNA involved collection of foreign intelligence on USSR and TRIDENT involved collection of counterintelligence on USSR through Ukrainian emigre activities and personalities (1946-48). Ivan Hrinioch, Michael Korzhan, Mykola Lebed, Yury Lopatinsky, Myron Matviyeyko associated with Projects.
UJDROLLERY	Gehlen Organization counterintelligence/counterespionage (CI/CE) projects.
USTASHA	The Ustasha was a Croatian organization put in charge of the Independent state of Croatia by the Axis powers in 1941. The Ustasha, which followed Nazi policies, sought to exterminate all Serbs, Jews, Gypsies, and others who opposed them, and was responsible for massacres and other atrocities.

これら機密解除されたCIAの特殊作戦・秘密工作は、1950年代を中心に、60年代・70年代にまで及ぶ。その一つ一つが、学術的に検討する価値がある貴重な冷戦期資料である。ただし圧倒的に、ソ連を主な対象としたヨーロッパでの作戦計画である。

これらのうち、編者がある程度取り組んできたのは、「ペーパークリップ (PAPERCLIP) 作戦」だった。米英の原爆製造マンハッタン計画の一環である「アルズ (ALSOS) 作戦」はよく知られているが、それと密接に関連する。

「アルズ作戦」は、敵国ドイツより早く、また同じ連合国でもソ連には知られないように原爆を完成し、ハイゼンベルグらドイツの最先端科学者を監視してドイツの兵器開発を妨害し、その技術を米英が独占するためのプロジェクトだった⁽¹⁰⁾。その「アルズ作戦」の延長上で、敗戦後の占領されたドイツから、核物理学者、技術者、医師、化学者など、米国の対ソ戦争準備に必要な人材を、ナチスへの協力者であっても戦犯訴追は免責して米国に協力させ、約1600人を移住させて、最新の核開発、ミサイル開発、生物化学兵器開発に動員したのが「ペーパークリップ作戦」である。その全貌は、本資料集と同じNARAのIWG機密解除資料を用いた最新の研究、アニー・ジェイコブセン『ナチ科学者を獲得せよ——アメリカ極秘国家プロジェクト・ペーパークリップ作戦』によって、初めて本格的に解明された⁽¹¹⁾。今日では、日本語Wikipediaにも立項されている⁽¹²⁾。

例えばナチスの「V2ロケットの生みの親」ヴェルナー・フォン・ブラウンが、戦後アメリカに移住して「アメリカ宇宙開発の父」となるのが、「ペーパークリップ作戦」の果実であり、帰結であった。1945年4月末ドイツ敗戦時から、多くのドイツ人科学者・技術者が密かに米軍に尋問され、米国に連行された。その理由が「日本との最終決戦のための新兵器開発」とされていたので、日本に関連する作戦も含まれるかとざっと目を通したが、それはあくまで口実だった。日本の関東軍731部隊(石井部隊)関係者の細菌戦・人体実験データと引き換えでの極東国際軍事(東京)裁判不訴追・免責・米軍協力は、「ペーパークリップ作戦」の一環ではないかと疑ったが、それは別作戦らしく、「ペーパークリップ」作戦は対独占領・戦後処理政策の一部だった。日本の731部隊の免責は、「ペーパークリップ作戦」に準じて進められ、後の朝鮮戦争・ベトナム戦争での米軍生物化学兵器使用の基礎の一つとなったと推定できる⁽¹³⁾。

膨大な暗号名でのCIA作戦ファイルで、唯一日本と関連したのが、DTPILLARであった。

DTPILLAR	DTPILLAR (1951-67) refers to CIA support to The Asia Foundation, which undertook programs via private institutions in Asia to counteract the spread and appeal of communism. Karl Herczeg associated with Project. Minoru Maeda considered for possible use on Project.
----------	---

これについては、本資料集に収める可能性を含め、やや詳しく検討した。確かにDTPILLARは、CIAがサポートした「アジア財団」に関するファイルであり、初期には、ヨーロッパの自由ヨーロッパ委員会、ラジオ自由ヨーロッパのアジア版である、自由アジア委員会、ラジオ自由アジア放送計画が、柱に据えられていた。

この「ディーティーピラー」プロジェクトについては、わが国で初めての研究である市原麻衣子氏の論文があり、次のように述べられていた。

自由アジア委員会は、中国共産党が中華人民共和国の建国を宣言し、朝鮮戦争の只中であってアジアにおける CIA の活動が高まっていた1951年3月12日、その2年前に設立された自由ヨーロッパ委員会 (Committee for Free Europe) を模倣する形で、カリフォルニア州の公益法人として設立された。アジアにおいて民間反共支援活動を行うべく、CIA が1951年2月7日に開始した DTPILLAR プロジェクト (Project DTPILLAR) の中核を成すカバー団体である。自由アジア委員会には大別して2つの役割が期待された。アジアにおける共産主義との心理戦において役割を担うこと、そして CIA 政策調整局 (Office of Policy Coordination: OPC) の秘密作戦の一端を担うことである。1952年1月3日付の自由アジア委員会運営規約 (Terms of Reference) によれば、自由アジア委員会の目的は共産主義との政治的戦争を戦う上で OPC の手段として機能し、時に OPC の秘密活動のカバーとなることで、アジアにおける共産主義の拡大を阻止することにあった。そのため DTPILLAR は OPC が管理していた。委員会メンバーには20年にわたる中国滞在経験を持つ、元ナショナル・シティ・バンク (National City Bank) のジョージ・H・グリーン Jr. (George H. Greene, Jr.) や、香港の嶺南大学元学長であるジェームズ・M・ヘンリー (James M. Henry) など、中国での活動経験を持つビジネス界の人間が名を連ねていた。自由アジア委員会の主な活動対象地域が中国であったことの反映である⁽¹⁴⁾。

アジア財団は現在アジア21か国に事務所を構え、開発・ガバナンス支援などを行う公共慈善団体であるが、当初は米中央情報局 (Central Intelligence Agency: CIA) が、民間団体による反共支援活動を行うものとして1951年2月7日に開始した DTPILLAR プロジェクト (Project DTPILLAR) の中核を成すカバー団体であった。1951年3月12日、CIA により自由アジア委員会 (Committee for Free Asia) として設立され、1954年秋にアジア財団へと名称が変更された。アジア財団の活動資金は、DTPILLAR プロジェクトのカバーとして一般市民から寄付を募るファンド・フォー・アジア (Fund for Asia) が1954年に設立された後には民間からの寄付も若干ながらあったものの、ほとんどが CIA の資金で賄われていた。アジア財団が CIA の資金で運営されているという事実を1967年3月にランパート誌 (Ramparts) が暴露するまで、アジア財団は民間公共慈善団体を装い続けた。CIA が運営していたアジア財団の助成活動が米国政府の冷戦政策の一翼を担っていたことは間違いのない⁽¹⁵⁾。

そこで、DTPILLAR の本資料集への収録も考えたが、内容は圧倒的に対中国工作が中心で、直接日本に関わる資料はごく少なく、断片的であった。何よりも、DTPILLAR の分量が、全3巻2 Boxes に及び、本「CIA 日本問題ファイル」2巻分に匹敵する大部のものであるため、『CIA 日本人ファイル』を補充する『CIA 日本問題ファイル』への収録は断念した。別途に、『CIA 自由アジア委員会・アジア財団ファイル』のようなかたちで公刊する方向で検討し、準備している。

ただし、以上によっても、戦後の CIA の諸活動が尽くされたわけではない。ドイツ、日本に関係する作戦に限っても、機密解除されなかった資料が残されている可能性がある。

The CIA Lexicon: Finding Aid for the Second Release には、日本に関する「タケマツ作戦」が出てきて、河辺虎四郎、有末精三、服部卓四郎ら旧参謀本部情報将校の Name Files 解

読に役に立ったが、もともと GHQ/G2 ウィロビー少将指導下の G2 歴史課のもとで展開された作戦であるためか、CIA の Subject Files には登場していない。

TAKEMATSU	Plan TAKEMATSU (1940s/50s) was the operational plan of US Army G-2 Far East Command in clandestine operations within Japan/peripheral areas using former Japanese intelligence personnel. Seizo Arisue, Torashiro Kawabe associated with this plan. (タケマツ作戦)
-----------	--

Name Files における昭和天皇ヒロヒトや岸信介の場合と同じように、今日でも米国の国益に関わる謀略や政治的機密に属するファイルは、国家機密として公開されなかった、または一部のみが公開された、と考えるべきであろう。

4 「CIA 日本問題ファイル」収録資料の概要

以上のような検討を経て、本資料集には、日本に関係するファイルを全 2 巻に編んで収録する方針を立てた。

ただしその際、Studies in Intelligence の 5 つの資料については、内容を精査すると、それらは当時の OSS/CIA の報告書として作られた一次資料ではなく、その領域の専門家が、CIA の研究誌 *Studies in Intelligence* に 1980 年代以降に書いた論文であった。参考資料として綴じ込まれているが、それぞれの論文の著作権が明示されている。

しかもそれらは、今日 CIA の公式ホームページの Library などに収録されており⁽¹⁶⁾、5 本ともウェブからダウンロードできる。また、それら 5 本の論文の 3 人の著者たちは、後にそれぞれ専門書を公刊していた。ウェブ上にも詳しい紹介や書評が出ており、著作権上の問題もあるので、本資料集への収録は断念することにした。

それぞれの論文の著者と CIA Subject Files の論文名、関連する著書は、以下の通りである。論文については url を注記した。

著者 Stephen C. Mercado 執筆当時 Foreign Broadcast Information Service, A former CIA analyst and Asia expert.

論文：① Japanese Army Intelligence Activities Against The United States, 1921-45 (*Studies in Intelligence*, 1994)⁽¹⁷⁾

② The Japanese Army's Nakano School, 1938-45 (*Studies in Intelligence*, 1995)⁽¹⁸⁾

③ A Contrary Japanese Army Intelligence Officer (*Studies in Intelligence*, 1997)⁽¹⁹⁾

著書：*The Shadow Warriors of Nakano: A History of the Imperial Japanese Army's Elite Intelligence School*, Brassey's Inc (2002/8)

著者 Troy J. Sacquety 執筆当時 a graduate student at Texas A&M University, a historian with the United States Army Special Operations Command. He previously worked for the

CIA and has been the historian for the OSS Detachment 101 Association for many years.
論文：④ Behind Japanese Lines in Burma (*Studies in Intelligence*, 2001)⁽²⁰⁾
著書：*The OSS in Burma: Jungle War Against the Japanese (Modern War Studies)*,
University Press of Kansas (2013/4)

著者 Jack B. Pfeiffer 執筆前 Chief of the CIA History Staff, 1997年没。

論文：⑤ OSS Propaganda in Europe and the Far East (*Studies in Intelligence*, 1984)⁽²¹⁾
著書：*CIA Official History of the Bay of Pigs Invasion*, 4 Volumes, Military Bookshop (2011/9)

なお、この領域の先駆的資料集として、山本武利編『第2次世界大戦期 日本の諜報機関分析』全8巻(柏書房、2000年)があり、38の重要文書を収録しているが、ヨーロッパについても、アジアについても、CIA Subject Files とは重複しないことを確認した。ただし、ヨーロッパ在住日本人の個人の履歴・評価、中国大陸の個々の特務機関の活動などの記述内容には、同一ないし類似のものが見られる。本資料集を使用する際は、ぜひ参照されたい。

編集方針としては、第1巻にヨーロッパ関係、第2巻に中国大陸関係を収録することにした。
第1巻

Japanese in Europe (World War II)

Japanese Nationals in Sweden

German and Axis Intelligence Systems (Feb. 1944)

Japanese News Service in Turkey (12 Feb. 1944)

Japanese Intelligence and Propaganda in Turkey (18 Apr. 1944)

Japanese in Europe (9 Dec. 1944)

Japanese Intelligence Activities in Scandinavia (30 Jan. 1945)

Sweden: Gen Onodera (18 Jun. 1945)

Interrogation Report: Cellarius Alexander (Aug. 1948)

Polish-Japanese Intelligence Collaboration during Wartime (Jul. 1946)

Interrogation Report of General Makoto Onodera (10 Sep. 1946)

Excerpts (relating to crypto-analysis and codes) from the interrogations of General Onodera,
General Onouchi and Colonel Hirose (12 Sep. 1946)

Onodera, Major General Makoto--Biographical Sketch of (25 Sep. 1946)

Japanese Wartime Intelligence Activities in Northern Europe (30 Sep. 1946)

Japanese Wartime Collaboration with the Polish Intelligence Service: with Appendix,
Japanese Specialists on Poland and Polish Wartime Activities in the Far East (2 Oct.
1946)

第2巻

Japanese Intelligence Organization in China (4 June 1946) Strategic Services Unit

Section I Japanese Naval Intelligence in China

Section II Japanese Military Intelligence in China
Section III Japanese Civilian Intelligence Organizations in China
Tientsin, China Card Files (OSS, SSU, CIG)
United Nations War Crimes Commission (Far Eastern and Pacific Sub Commission), List of
War Crimes and Material Witnesses (Japanese)

以下に、それぞれのファイルがどのようなものであるかを、簡単に記す。その史資料的意味や内容的評価は、それぞれに関心を持つ読者によって解明されるであろう。

第1巻 Japanese in Europe

① Japanese Nationals in Sweden

冒頭に「ヨーロッパにおける日本の活動のまとめ」とありながら、日付も調査主体もなく、米国国立公文書館のオリジナルそのものが、印刷不鮮明できわめて読みにくい「スウェーデンにおける日本人」というファイルである。本資料集では、冒頭1-4頁の字形判読の困難な Second Release の収録は断念し、相対的に判読可能な First Release の方を収めることにした。そうすると、断片的に読める記述から、1945年5月以降に作成されたものであること、約70人の戦時在スウェーデン日本人を公使館関係者、軍人、ジャーナリスト他におおまかに分類して、それぞれの氏名、勤務先と職務、住所、電話番号、生年月日などをわかる範囲でリストにしたものであることが、一応読み取れる。岡本李正・日本公使、小野寺信・陸軍武官、斉藤正躬・同盟通信特派員らの名前と概要が読み取れる。

② German and Axis Intelligence Systems (Feb. 1944以前)

「ドイツと枢軸国のインテリジェンス体制」と銘打っているが、内容的にはバルカン半島、トルコ、中東でのドイツ国防軍情報部 (Abwehr) の活動を、連合国軍側が摘発・尋問記録などからまとめたものである。ドイツの3つのセクションとその概要を述べた後、ジュネーヴ、バルカンなどでの活動に触れており、それに関連して、アンカラのアオキ、ソフィアのイズミなど、ドイツの枢軸同盟国日本の中東における諜報活動に触れている。

③ Japanese News Service in Turkey (12 Feb. 1944)

「トルコにおける日本のニュース・サービス」で、トルコの OWI (戦時米国のホワイト・プロパガンダを担った戦時情報局 Office of War Information) によりまとめられたもの。②で簡単に触れられた、アンカラのアオキ・モリオとソフィアのイズミにより進められたというヨーロッパ・アジア・英米の結節点での日本の諜報活動を分析している。ブタペストの榎本桃太郎 (東京日日新聞特派員) らの活動が記録される。

④ Japanese Intelligence and Propaganda in Turkey (18 Apr. 1944)

「トルコにおける諜報と宣伝」「トルコにおける日本のニュース・サービス」と題した、イスタンブールの SI からワシントンの SI 極東部への通信である。SI というのは、OSS (CIA の直接の前身である戦略情報局 Office of Strategic Service、戦時ブラック・プロパガンダを担当) の一部門で、対外情報を収集する Secret Intelligence = 秘密情報部のことである⁽²²⁾。ヨーロッパとアジア・中東を結ぶ交通・通信の要路イスタンブールを中心に、ベルリン在独日本大使館の

内田藤雄らと東京をつなぐネットワークの中に、同盟通信など日本の通信社・新聞社の戦時特派員のほとんどが、日本のインテリジェンスの担い手としてリストアップされている。

⑤ Japanese in Europe (9 Dec. 1944)

上記のトルコを中心としたリストへの補足として、北欧スウェーデン、フィンランドにおける日本人諜報員を、MIS (Military Intelligence Service 陸軍情報部) がリストアップしたもの。外交官、陸海軍軍人、ジャーナリストが、氏名ばかりでなく生年・出身地と略歴が記され、連合軍側の評価が含まれているものもある。

⑥ Japanese Intelligence Activities in Scandinavia (30 Jan. 1945)

「スカンディナヴィアにおける日本の諜報活動」と銘打っているが、中心はスウェーデンのストックホルムで、日本公使館の岡本季正、陸軍武官事務所の小野寺信を中心とした諜報活動の概観である。経済・技術インテリジェンスにも目配りされている。後半には、それらに関わる諸個人の相対的に詳しいリストと略歴・評価、さらに重要人物については写真が掲げられている。

これらの分析と評価は、山本武利編『第二次世界大戦期 日本の諜報機関分析』第7巻(欧米編1)に収められた、「ヨーロッパ各地における日本諜報機関員リスト(1945.01.15)」、「ヨーロッパにおける日本諜報機関と機関員リスト—OSSの分析(1944.06.01)」、「ドイツ周辺における日本諜報機関—連合国軍の分析(1944.09.17)」と照合しつつ利用すると、その報告時期ごとの変化を含め、連合国側の諜報活動を浮き彫りにする。例えば、編者が長く探求している戦時在独日本大使館嘱託・東大講師崎村茂樹 Sakimura Shigeki (Dr.) の1943-44年のスウェーデン亡命⁽²³⁾についても、この資料には他の資料とは重ならない情報が含まれている。

⑦ Sweden: Gen Onodera (18 June 1945)

「スウェーデン：小野寺将軍」という、日本の敗戦直前の連合国側メモ。戦時中立国であるスウェーデンの陸軍武官・小野寺信については、連合国側がヨーロッパにおける日本のインテリジェンスのキーパーソンと見なしてきた事情があり、NARA/IWG資料中に数々の第一次史料が入っている。すでに刊行した『CIA日本人ファイル』では、第8巻を小野寺信の個人ファイル全2冊に当てたが、小野寺については、ARMY (MIS = CIC/IRR Name Files)、FBIにも大部の個人ファイルがある。イギリスの国立公文書館(TNA)やスウェーデン国立公文書館にもまとまった小野寺信ファイルがあり、CIA問題別ファイル中の本資料は、それらを補う意味がある。

小野寺信については、1945年2月のヤルタ会談におけるソ連参戦密約をいち早く諜報網を通じて得て、日本に打電したという妻の証言以降、日本でもさまざまな研究が行われている⁽²⁴⁾。本資料集のCIAの収集した小野寺情報は、その謎の解明に役立つであろう。

⑧ Interrogation Report: Cellarius Alexander (Aug. 1948)

1898年ロシア生まれのドイツ人で、ドイツ国防軍情報部の対ソ諜報活動を行った Cellarius Alexander の尋問記録。フィンランド、スウェーデンが主要なインテリジェンス活動の舞台で、ストックホルムでの情報源に日本の小野寺信が入っていたため、このファイル群に綴じ込まれたが、日本と直接関連する情報は、ごくわずかである。Wikipediaでは、この人物について、フィンランド語などいくつかの北欧語で立項されている⁽²⁵⁾。

⑨ Polish-Japanese Intelligence Collaboration during Wartime (July 1946)

「戦時におけるポーランドと日本のインテリジェンス活動の合作」を、戦後になってまとめたもの。リトアニア出身の元ポーランド参謀本部諜報員ミハウ・リビコフスキをストックホルム駐在の陸軍武官・小野寺信が使っていたため、ここに綴じ込まれた。小野寺と、ストックホルムのドイツ公使館の情報士官カール・ハインツ・クレマーとの関係も追跡されている。

⑩ Interrogation Report of General Makoto Onodera (10 Sep. 1946)

小野寺信は、敗戦後に連合国軍から厳しい尋問を受けるが、その中のポーランド関係、特にリビコフスキとの関係を詳しくまとめたもの。いわゆる「イワノフ」情報についてなど、ヨーロッパにおける日本の諜報活動において、英米は小野寺＝リビコフスキ関係をきわめて重視していたことを示す。小野寺信の対ソ諜報ネットワークの傘下に入っていたリトアニア領事館の杉原千畝の名前も出てくる。

⑪ Excerpts (relating to crypto-analysis and codes) from the interrogations of General Onodera, General Onouchi and Colonel Hirose (12 Sep. 1946)

「小野寺(信)将軍、小野打(寛)将軍、広瀬(栄一)大佐の尋問記録抜粋(暗号解読、暗号に関連して)」は、小野寺信と共に、北欧で活動した小野打寛・広瀬栄一の諜報尋問記録から、暗号・暗号解読に関して述べた部分を抜粋したもの。

これについては、小野寺信の米国SSU (Strategic Services Unit 戦略諜報隊、1945年OSS解散後に米国陸軍省が引きついでインテリジェンス部門で、1947年CIA結成の母体となる)での尋問記録「日本の戦時下の北欧でのインテリジェンス活動」⁽²⁶⁾から、スウェーデンの小野寺信、フィンランドの小野打寛、広瀬栄一の暗号連絡を含む諜報活動を解明した山本武利らの綿密な研究があるので、参照のこと⁽²⁷⁾。

⑫ Onodera, Major General Makoto—Biographical Sketch of (25 Sep. 1946)

「小野寺信陸軍少将——伝記的スケッチ」は、前項で注記した山本武利論文で要約的に紹介されたSSU資料と同一と思われる。CIAにファイリングされた原文は詳しいものなので、本資料集に収録する。

⑬ Japanese Wartime Intelligence Activities in Northern Europe (30 Sep. 1946)

これが、山本論文で使われたSSU尋問記録「日本の戦時下の北欧でのインテリジェンス活動」全58頁の全文である。内容についての概略は、『インテリジェンス』第9号の山本論文を参照されたい。

⑭ Japanese Wartime Collaboration with the Polish Intelligence Service: with Appendix, (Oct. 2, 1946)

「戦時におけるポーランドと日本のインテリジェンス活動の合作」(⑨、1946年7月)の3カ月後に作られたと思われる「日本のポーランド諜報部との戦時合作：付録付き」で、SSUの9月の小野寺信尋問による経歴分析(⑩)及び北欧諜報活動分析(⑬)にもとづき、日本とポーランド諜報機関の関係を、1940-45年期について改めて摘記したものである。

⑮ Japanese Specialists on Poland and Polish Wartime Activities in the Far East (2 Oct. 1946)

これは、⑭の「付録」にあたる1頁の人名リスト「日本のポーランド専門家及び極東におけるポーランドの戦時活動」で、小野寺信が提供したという10人のリスト。山脇正隆、秦彦三郎、

上田昌雄らの名が挙げられているが、今日この点については、日本側・ポーランド側でそれぞれ本格的な研究書が出されており、インテリジェンス関係についても述べられているので、それらを参照・照合されたい⁽²⁸⁾。

第2巻には、中国関係のファイルを収録した。これについては、山本武利編『第2次世界大戦期 日本の諜報機関分析』第4巻(中国編1)に「中国における日本諜報機関総括——アメリカ派遣陸軍の分析(1945.08.04)」など11編のファイルが、OSS/SSU/MIS(G2)の作成として収録されており、特に満州・華北・上海・華南などの地域別諜報組織分析が貴重であるが、本資料集のSSUによる「中国における日本の諜報機関」は入っていない。ただし、個々の特務機関についての記述については、当然ながら類似するものがあり、専門研究においては比較・参照すべきである。

このCIA中国関係問題別ファイルは、米国国立公文書館のオリジナルは、ネガ・フィルムで撮影されているが、本資料集では、読みやすくするために、ポジに焼き直して収録した。

① Japanese Intelligence Organization in China (4 June 1946) Strategic Services Unit

Introduction

Section I Japanese Naval Intelligence in China

Section II Japanese Military Intelligence in China

Section III Japanese Civilian Intelligence Organizations in China

この総目次のように、日本海軍・陸軍・シベリアンに分けて、それぞれの諜報組織・諜報機関を体系的・総括的に考察したもので、将来の検討の土台にすることを目指している。戦後1945年9月から46年3月までのSSU広東、天津、北京、青島、上海事務所の報告をもとにしたもので、敗戦時における日本軍の証拠隠滅による欠落がありうることを断っている。ただし、ここでのCivilianには外務省などの官僚も含まれるので、以下では「民間人」ではなく「非軍人」と仮訳しておく。

「第一部 中国における日本海軍のインテリジェンス」

目次は、以下のようになる。それぞれの項で、児玉(誉士夫)機関など個別の組織についても述べられている。

- 1 中国方面[支那方面]艦隊
- 2 日本海軍上海陸戦隊本部
- 3 上海海軍特別陸戦隊
- 4 日本海軍の中国・上海事務所
- 5 日本海軍の諜報機関
- 6 日本海軍とソビエトの関係
- 7 付録

「第二部 中国における日本陸軍のインテリジェンス」

目次は、以下の通り。梅機関、松機関、桜機関、阪田機関、日高機関などについての個別の

分析も含まれている。

- A 序論
- B 指揮系統
- C 中国遠征〔支那駐屯〕軍
 - 1 参謀本部と将校
 - 2 華北
 - 3 華中
 - 4 華南
 - 5 特務機関
 - 6 憲兵隊
- D 関東軍
 - 1 組織構造
 - 2 作戦方法

付録

〔第三部 中国における非軍人のインテリジェンス組織〕

目次は、以下のようになる。

- 1 日本の外務省公館
- 2 1937年以来の外務省公館の機能
 - A 諸組織
- 3 外務省公館各部とつながる重要ポイント
- 4 中国における大使館と領事館
- 5 日本大使館による中国の経済運営
 - A 興亜院
 - B 大東亜省
- 6 中国・上海における日本領事館
- 7 上海日本領事館の活動 1932-1937
- 8 上海日本領事館の活動 1937-1942
- 9 上海日本領事館の活動 1942-1945
- 10 領事館の統制下の諸組織
 - A 東亜同文書院

第2巻後半の、② Tientsin, China Card Files (OSS, SSU, CIG) は、時期は特定されていないが、日本敗戦後における天津での、連合軍による戦犯追及記録である。

タイトルからは、連合国戦争犯罪委員会 (UNWCC = United Nations War Crimes Commission) の極東太平洋特別委員会 (Far Eastern and Pacific Sub Commission) が作成した「戦犯及び物的証拠・証言リスト (日本編) List of War Crimes and Material Witnesses : Japanese」となる。いわば「天津・カード式日本戦犯リスト」で、400枚以上がアルファベット順に並べてある。本

資料集では、順番はくずさないかたちで、2枚のカードを1頁に収録した。

冒頭に、「以下の日本戦犯及び物的証拠・証言リストは、連合国軍権力によってすみやかに逮捕し拘留される対象である。戦犯としてリストに挙げられた人物は、特別委員会が起訴して裁判にかけるに足る十分な証拠があるとして名指されたものである。個々の人物は、現在入手できた証拠にしたがって、分類される。特別委員会は、以下のようにケースを分類した。

(A-1) 戦争犯罪の実際の犯行者として告発するに足る十分な証拠があつて名指されたケース
(A-2) 敵の軍人ないし非軍人で、戦争犯罪を奨励したり、黙認したり、あるいは何らかのかたちで責任があると見なされる職務に関わったことで、告発するに足る十分な証拠があるケース

(B) A-1 及び A-2 のケースには該当しないが、戦闘の停止以後に物的証拠・証言として当局により尋問さるべき敵の個人、軍人または非軍人」とある。

このようなカードは、CIA や MIS の Name Files の中に、個人資料として個別に綴じ込まれているケースは、しばしば見られる。しかし、特定の地域の戦犯・戦犯容疑者のカードが全体としてひとまとめになっている資料は、編者の知る限り、ほとんどない。

リストの該当者には、「日本の戦犯及び容疑者」として、連合国のそれぞれの国の政府から関心をもたれた際に、(A) オーストラリア、(B) イギリス、(C) 中国、(D) オランダ、(US) アメリカ合衆国の略号を付すとされているが、実物では必ずしも徹底していない。400人以上のカードがあるが、名前だけのものもあれば、略歴に上記分類が記されたものもある。日本人名が多いが、日本に協力した廉で告発された外国人も含まれている。

連合国戦争犯罪委員会 (UNWCC) は、1943年10月20日に17カ国によって設立され、枢軸国側の戦争犯罪の証拠調査を担当した。1945年8月8日には、極東太平洋特別委員会を設置し、委員長には中華民国の駐英大使・顧維鈞が就任した。極東国際軍事裁判 (東京裁判) に向けての国際検察局 (IPS) 設立は1945年12月8日であるが、本資料集収録の「天津・カード式日本戦犯リスト」の個票には、1945年9月の記述はみられるが、IPS や FEC (極東委員会、1945年9月設立) についての言及はみられないので、中国大陸での戦犯追及のための初発の基礎資料と思われる⁽²⁹⁾。

そのためか、個票の軍人らの直接の罪状には「殺人 murder」「虐殺 massacre」「体系的テロ systematic terrorism」などを挙げられたものが多く、後の東京裁判で問題になるいわゆる「平和に対する罪 (A 級)」「人道に対する罪 (C 級)」よりも、従来からの通常の戦争犯罪 (B 級) を想定した戦犯候補者発見・検挙のためのリスト=データベースと推定できる。

日本人名が圧倒的に多いが、中にはロシア系ユダヤ人や中国人で日本軍に協力したとされる人々もいて、具体的作成を担当した戦時 OSS (戦略情報局) の情報が、戦後に SSU (戦略諜報部隊)、CIG (中央情報グループ) を経て CIA (中央情報局) へとカードが移管され、受け継がれる過程で、対ソ反共諜報のためにも使われた可能性がある。

総じて、米国 OSS/SSU/CIA が、どのような人物を戦犯容疑の名目で監視し、告発したか

がわかる資料となっている。

注

- (1) <http://www.archives.gov/press/press-releases/2007/nr07-47.html> (2016年1月10日閲覧、以下 web page については同じ)
- (2) 清水正義「ナチ戦争犯罪情報公開法の成立について」
<http://www.geocities.jp/dasheiligewasser/others/OnNaziWarCriminalAct.htm>
<http://www.fas.org/sgp/library/iwgreport02.html> をも参照。
- (3) U.S. intelligence involvement with German and Japanese war criminals after World War
http://en.wikipedia.org/wiki/U.S._intelligence_involvement_with_German_and_Japanese_war_criminals_after_World_War_II
- (4) <http://www.archives.gov/iwg/declassified-records/>
- (5) <http://www.archives.gov/iwg/>
- (6) 加藤哲郎『象徴天皇制の起源——アメリカの心理戦「日本計画」』（平凡社新書、2005年）53頁。
- (7) <http://www.archives.gov/iwg/declassified-records/rg-263-cia-records/first-release-subject-files.html>
- (8) <http://www.archives.gov/iwg/declassified-records/rg-263-cia-records/second-release-subject-files.html>
- (9) Research Aid: Cryptonyms and Terms in Declassified CIA Files: Nazi War Crimes and Japanese Imperial Government Records Disclosure Acts
<http://www.archives.gov/iwg/declassified-records/rg-263-cia-records/second-release-lexicon.pdf>
- (10) 山極晃・立花誠逸編、岡田良之助訳『資料マンハッタン計画』（大月書店、1993年）第3部二「アルプスの海外諜報活動」参照。
- (11) アニー・ジェイコブセン、加藤万里子訳『ナチ科学者を獲得せよ——アメリカ極秘国家プロジェクト・ペーパークリップ作戦』（太田出版、2015年）。
- (12) <https://ja.wikipedia.org/wiki/ペーパークリップ作戦>
- (13) この点について、加藤の講演録「戦争の記憶—ゾルゲ事件、731部隊、シベリア抑留」参照。
<http://members.jcom.home.ne.jp/tekato/sorge731.pdf>
- (14) 市原麻衣子「〈研究ノート〉冷戦期アジアにおける米国の反共支援と冷戦後民主化支援への影響：自由アジア委員会・アジア財団を事例として」上智大学『コスモポリス』8号、2014年3月。
- (15) 市原麻衣子「アジア財団を通じた日米特殊関係の形成？：日本の現代中国研究に対するCIAのソフトパワー行使」名古屋大学『法政論集』第260号、2015年。
- (16) <https://www.cia.gov/library/center-for-the-study-of-intelligence/csi-publications/csi-studies>
- (17) http://www.foia.cia.gov/sites/default/files/document_conversions/1705143/STUDIES%20IN%20INTELLIGENCE%20JAPANESE%20-%20RELATED%20ARTICLES_0001.pdf
- (18) http://www.foia.cia.gov/sites/default/files/document_conversions/1705143/STUDIES%20IN%20INTELLIGENCE%20JAPANESE%20-%20RELATED%20ARTICLES_0002.pdf
- (19) http://www.foia.cia.gov/sites/default/files/document_conversions/1705143/STUDIES%20IN%20INTELLIGENCE%20JAPANESE%20-%20RELATED%20ARTICLES_0003.pdf
- (20) https://www.cia.gov/library/center-for-the-study-of-intelligence/csi-publications/csi-studies/studies/fall_winter_2001/article07.html
- (21) <http://media.nara.gov/dc-metro/rg-263/6922330/Box-9-103-1/263-a1-27-box-9-103-1.pdf>
- (22) OSS の組織について、簡単には加藤哲郎『象徴天皇制の起源——アメリカの心理戦「日本計

- 画』(平凡社新書、2005年) 52-54頁。
- (23) 崎村茂樹については、加藤哲郎「情報戦のなかの『亡命』知識人——国崎定洞から崎村茂樹まで」(『インテリジェンス』第9号、紀伊國屋書店、2007年11月、所収)。同「社会民主主義の国際連帯と生命力——1944年ストックホルムの記録から」(田中浩編『リベラル・デモクラシーとソーシャル・デモクラシー』未来社、2013年1月、所収)、参照。
- (24) 小野寺百合子『バルト海のほとりにて——武官の妻の大東亜戦争』(共同通信社、1985年)、岡部伸『消えたヤルタ密約緊急電——情報士官・小野寺信の孤独な戦い』(新潮選書、2012年)、岡部伸『「諜報の神様」と呼ばれた男——連合国が恐れた情報士官小野寺信の流儀』(PHP 研究所、2014年)、吉見直人『終戦史——なぜ決断できなかったのか』(NHK 出版、2013年)、など参照。
- (25) https://fi.wikipedia.org/wiki/Alexander_Cellarius
- (26) Japanese Wartime Intelligence Activities in Northern Europe, NARA,RG 263,Entry A 1 -87, Box. 4.
- (27) 20世紀メディア研究所『インテリジェンス』第9号(2007年)の特集「対ソ・対ロのインテリジェンス活動」に収録された、山本武利「第二次大戦期における北欧の日本陸軍武官室の対ソ・インテリジェンス活動——スウェーデン公使館付武官・小野寺信の供述書をめぐって」、宮杉浩泰「第二次大戦期日本の暗号解読における欧州各国との連携」、同「暗号解読をめぐるSSUへの広瀬栄一の供述」、木村洋「日本・ポーランド暗号協力に関する一考察」、森山優「戦時期日本の暗号解読とアメリカの対応——暗号運用の観点から」、参照。
- (28) 阪東宏『世界のなかの日本・ポーランド関係 1931-1945』(大月書店、2004年)、エヴァ パワシュルトコフスカ、アンジェイ・タデウシュ・ロメル著、柴理子訳『日本・ポーランド関係史』(彩流社、2009年)、参照。
- (29) ただし厳密な評価は利用者に委ねたい。極東国際軍事裁判にいたる経過については、さしあたり、栗屋憲太郎『東京裁判への道』上下(講談社選書メチエ、2006-07年)、日暮吉延『東京裁判』(講談社現代新書、2008年)、など参照。